

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）（公表）

公表：令和 6年 2月 20日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

職員数 7 回収数 7 割合100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			今後も法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保する。
	②	職員の配置数は適切である	7			休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		障がい特性を踏まえ、子どもにわかりやすい空間づくりを目指す。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			子どもが落ち着いて活動しやすい家庭的な環境作りをする。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			業務改善は職員会議でPDCAサイクルを活用し行う。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			アンケートにより保護者の意向を把握し、業務改善に努める。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			職員会議にて評価結果を共有し、業務改善につなげる。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			より良い支援を目指し、積極的に各種の研修、講演会に参加する。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			個別の課題やニーズを基に計画を作成するため、丁寧なアセスメントを心掛ける。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			今後も個人票とアセスメントシートを活用し子どもの状況を把握する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			子どもの特性等に合わせ、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせる支援内容を設定する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1		個々の支援計画の内容を確認した上で、支援する。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		今後も活動プログラムを打合せて話し合い決定する。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			発達段階や障がい特性、子どもの意向等を考慮し活動内容を検討する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			子どもの課題や状況に合わせて、児童発達支援計画を作成する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			事前に打ち合わせをして支援の内容や職員の役割を確認する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			午前中の療育終了後に、担当職員で支援の振り返りを行っている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			業務日誌に記録することで、よりよい支援につなげる。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	6	1		定期的なモニタリングを通して、定期的に支援計画を見直す。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者が担当者会議に参加している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		関係機関と顔の見える関係作りを大切にすることでスムーズな連携による支援を目指す。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2		今後医療的ケア児を支援する際には、医療的ケアを確認しながら受け入れを検討する。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2		今後も医療機関には協力してもらい、連携できる体制を整える。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3		保育所等との情報共有を図り、子どもを支援する。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		移行支援する際には、行動特性や利用中の様子等の情報提供を行う。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	3		定期的に児童会館や体育館のキッズコーナー等で障害のない子どもとの交流を図る。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7			積極的に研修に参加する。

	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			日々の連絡ノートや定期的な面談を通して、子どもの様子や課題の共有に努める。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	2		今年度は希望者はいない。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、希望者には個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			今後も契約時等に丁寧に説明する。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			ガイドラインにある提供すべき支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。
	③⑭ 定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			今後も定期的な面談等を通して、子育て相談の支援をする。
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		今後は食事会等の行事での保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			相談対応は随時電話や連絡ノート、面談にて行う。
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し発信している	7			今後も毎月のお便りの発行を継続する。
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意している	7			契約時に個人情報使用同意書を確認し、注意して情報を取り扱う。

	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	2		コロナ禍で行事を中止していたが、行事を再開しているため、今後は地域住民や関係者に招待状を配布する。
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	1		災害マニュアル等を契約時等に保護者に周知し、各種訓練を定期的実施する。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		非常災害計画に基づき、定期的に避難訓練を実施する。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7			保護者と情報を共有し、子どもの健康管理に配慮する。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	2		食物アレルギーのある子どもには代替のおやつ等を提供することを徹底する。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7			重大な事故につながらないように、日々日誌への記載や、打合せ、定例会議での情報共有に努める。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7			外部研修と内部研修を通して、対応を再確認し、虐待防止の意識を高める。

	④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	5	2	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
--	---	---	---	---

## 事業所における自己評価結果（児童発達支援）（公表）

公表：令和 6年 2月 20日

事業所名 はじめのいっぽ弥生

職員数 7 回収数 7 割合100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			今後も法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保する。
	②	職員の配置数は適切である	7			休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2		障がい特性を踏まえ、子どもにわかりやすい空間づくりを目指す。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			子どもが落ち着いて活動しやすい家庭的な環境作りをする。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			業務改善は職員会議でPDCAサイクルを活用し行う。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			アンケートにより保護者の意向を把握し、業務改善に努める。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			職員会議にて評価結果を共有し、業務改善につなげる。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4		今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			より良い支援を目指し、積極的に各種の研修、講演会に参加する。

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			個別の課題やニーズを基に計画を作成するため、丁寧なアセスメントを心掛ける。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			今後も個人票とアセスメントシートを活用し子どもの状況を把握する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			子どもの特性等に合わせ、発達支援、家族支援、地域支援を組み合わせる支援内容を設定する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1		個々の支援計画の内容を確認した上で、支援する。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		今後も活動プログラムを打合せて話し合い決定する。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			発達段階や障がい特性、子どもの意向等を考慮し活動内容を検討する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			子どもの課題や状況に合わせて、児童発達支援計画を作成する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			事前に打ち合わせをして支援の内容や職員の役割を確認する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			午前中の療育終了後に、担当職員で支援の振り返りを行っている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			業務日誌に記録することで、よりよい支援につなげる。



	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	6	1		定期的なモニタリングを通して、定期的に支援計画を見直す。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者が担当者会議に参加している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		関係機関と顔の見える関係作りを大切にすることでスムーズな連携による支援を目指す。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	2		今後医療的ケア児を支援する際には、医療的ケアを確認しながら受け入れを検討する。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2		今後も医療機関には協力してもらい、連携できる体制を整える。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	3		保育所等との情報共有を図り、子どもを支援する。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		移行支援する際には、行動特性や利用中の様子等の情報提供を行う。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	3		定期的に児童会館や体育館のキッズコーナー等で障害のない子どもとの交流を図る。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7			積極的に研修に参加する。

	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			日々の連絡ノートや定期的な面談を通して、子どもの様子や課題の共有に努める。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	2		今年度は希望者はいない。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、希望者には個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			今後も契約時等に丁寧に説明する。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			ガイドラインにある提供すべき支援のねらい及び支援内容と、実際の支援計画を示しながら、支援内容を説明する。
	③⑭ 定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			今後も定期的な面談等を通して、子育て相談の支援をする。
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6		今後は食事会等の行事での保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			相談対応は随時電話や連絡ノート、面談にて行う。
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し発信している	7			今後も毎月のお便りの発行を継続する。
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意している	7			契約時に個人情報使用同意書を確認し、注意して情報を取り扱う。

	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	2		コロナ禍で行事を中止していたが、行事を再開しているため、今後は地域住民や関係者に招待状を配布する。
非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	1		災害マニュアル等を契約時等に保護者に周知し、各種訓練を定期的実施する。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		非常災害計画に基づき、定期的に避難訓練を実施する。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7			保護者と情報を共有し、子どもの健康管理に配慮する。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	2		食物アレルギーのある子どもには代替のおやつ等を提供することを徹底する。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7			重大な事故につながらないように、日々日誌への記載や、打合せ、定例会議での情報共有に努める。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7			外部研修と内部研修を通して、対応を再確認し、虐待防止の意識を高める。

	<p>④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか</p>	5	2	身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
--	---	---	---	---

## 事業所における自己評価結果(放課後等デイサービス) (公表)

公表：令和 6年 2月 20日

職員数 11 回収数 11 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切である	11			休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	3	3	子どもが自主的に行動しやすい環境作りに努める。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11			業務改善は職員会議でPDCAサイクルを活用し行う。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1		事業所評価により保護者の意向を把握し、改善に努める。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	2		自己評価等をまとめ、改善内容等をホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		2	今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1		研修計画を作成し、各種研修、講演会に参加するようにする。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	1		今後も保護者からの聞き取り等を通じ、丁寧にアセスメントし、個々のニーズを計画に取り入れる。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		1	今後も個人票やアセスメントシートを活用し子どもの状態を把握する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	3	1	日々の活動プログラムを打合せで話し合い決定する。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	2		発達段階や障がい特性、子どもの意向等を勘案し活動を検討する。

適切な支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	2	1	日々の活動プログラム表や毎月のお便りに、療育内容や子どもの様子だけではなく、平日、休日、長期休暇に応じた課題を記載することで、ご家族にも周知する。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	1	1	子どもの特性に合わせ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、計画作成している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	11			午前、午後の打合せで支援内容を共有する。	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	2	5	4	夕方の支援終了後当日の打合せが難しく、次の日の打合せで支援の振り返りをしている。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	2		支援内容を適切に記録し、モニタリングにつなげる。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8	1		定期的なモニタリングを通して放課後等デイサービス計画を見直す。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	8	1	1	子どもの特性に合わせ、屋外活動や創作活動、地域交流等行っていく。	
	関係機関や保護者	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	10			サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が会議に参加し、関係機関と連携している。
		㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の連絡調整、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8	1		随時学校と情報共有することで、適切な支援につなげる。
㉒		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	1	1	医療的ケア児は利用していないが、受け入れる際は主治医との連携に努める。	
㉓		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	2	2	必要に合わせ子どもの情報収集のため保育所等との連携を図る。	
㉔		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	2	2	今後対象となる子どもがいる場合には情報提供等の支援を行う。	
㉕		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	1	2	研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。	

との連携	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	3	5	放課後に小学校との交流を図れるように、学校関係者と連絡をとる。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	6	2		地域自立支援協議会には参加するようにしているが、今後も継続して参加する。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9			連絡ノートや面談等を通して日常的に話しやすい体制を整える。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8		1	今年度は2件ペアレントトレーニングを実施。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	1		今後も契約時や見学等で説明するようにする。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	1		面談時や随時、相談対応するようにする。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	2	4	食事会等の行事での、保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10		1	契約時には、事業所内の苦情相談窓口と、行政の受付機関の説明。日頃の対応は、LINE等で苦情につながらないよう相談しやすい環境に努めている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	11			今後も毎月お便りの発行を継続する。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	11			契約時に個人情報使用同意書を確認し、個々の意向に沿って、情報を取り扱うようにしている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	1		絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10	1		今年度は8月のお祭りで数名の学校の先生に参加してもらった。コロナ禍で行事を中止していたが、行事を再開しているため、今後は地域住民や関係者に招待状を配布する。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	10			災害マニュアル等を作成しているが、契約時等に保護者に周知できるように徹底する。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	11			定期的に行うため、年間計画に入れ、必ず実施するように会議で確認する。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する、適切な対応をしているか	10		1	外部研修と内部研修を通して、対応を再確認し、虐待防止の意識を高める。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	9			身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9			病院によるアレルギー検査結果等を保護者と共有し、代替のおやつを提供することを徹底する。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	11			重大な事故につながらないように、日々日誌への記載や、打ち合わせ、定例会議での情報共有に努める。



## 事業所における自己評価結果(放課後等デイサービス) (公表)

公表：令和 6年 2月 20日

職員数 11 回収数 11 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11			法律で定められた子ども一人当たりのスペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切である	11			休みの職員がいるとき等、随時職員体制が適正かの判断をする。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	3	3	子どもが自主的に行動しやすい環境作りに努める。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11			業務改善は職員会議でPDCAサイクルを活用し行う。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1		事業所評価により保護者の意向を把握し、改善に努める。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	2		自己評価等をまとめ、改善内容等をホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		2	今後は、可能な限り第三者による評価の導入を検討する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	1		研修計画を作成し、各種研修、講演会に参加するようにする。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	1		今後も保護者からの聞き取り等を通じ、丁寧にアセスメントし、個々のニーズを計画に取り入れる。
⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		1	今後も個人票やアセスメントシートを活用し子どもの状態を把握する。	
⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	3	1	日々の活動プログラムを打合せで話し合い決定する。	
⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	2		発達段階や障がい特性、子どもの意向等を勘案し活動を検討する。	

適切な支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	2	1	日々の活動プログラム表や毎月のお便りに、療育内容や子どもの様子だけではなく、平日、休日、長期休暇に応じた課題を記載することで、ご家族にも周知する。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	1	1	子どもの特性に合わせ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、計画作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	11			午前、午後の打合せで支援内容を共有する。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	2	5	4	夕方の支援終了後当日の打合せが難しく、次の日の打合せで支援の振り返りをしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	2		支援内容を適切に記録し、モニタリングにつなげる。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8	1		定期的なモニタリングを通して放課後等デイサービス計画を見直す。
関係機関や保護者	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	8	1	1	子どもの特性に合わせ、屋外活動や創作活動、地域交流等行っていく。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	10			サービス担当者会議には児童発達支援管理責任者が会議に参加し、関係機関と連携している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の連絡調整、送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8	1		随時学校と情報共有することで、適切な支援につなげる。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	1	1	医療的ケア児は利用していないが、受け入れる際は主治医との連携に努める。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	2	2	必要に合わせ子どもの情報収集のため保育所等との連携を図る。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	3	2	2	今後対象となる子どもがいる場合には情報提供等の支援を行う。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	1	2	研修等を通し情報交換をしながら、専門機関との連携を大切にする。

との連携	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	3	5	放課後に小学校との交流を図れるように、学校関係者と連絡をとる。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	6	2		地域自立支援協議会には参加するようにしているが、今後も継続して参加する。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9			連絡ノートや面談等を通して日常的に話しやすい体制を整える。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8		1	今年度は2件ペアレントトレーニングを実施。今まで通り、毎月のお便り等にペアレントトレーニングの実施を呼びかけ、個別に対応する。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	1		今後も契約時や見学等で説明するようにする。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	1		面談時や随時、相談対応するようにする。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	2	4	食事会等の行事での、保護者によるお手伝い等を通して、保護者同士の連携を支援する。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10		1	契約時には、事業所内の苦情相談窓口と、行政の受付機関の説明。日頃の対応は、LINE等で苦情につながらないよう相談しやすい環境に努めている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	11			今後も毎月お便りの発行を継続する。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	11			契約時に個人情報使用同意書を確認し、個々の意向に沿って、情報を取り扱うようにしている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	1		絵カードの活用など障害特性に応じたコミュニケーション手段を活用する。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	10	1		今年度は8月のお祭りで数名の学校の先生に参加してもらった。コロナ禍で行事を中止していたが、行事を再開しているため、今後は地域住民や関係者に招待状を配布する。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	10			災害マニュアル等を作成しているが、契約時等に保護者に周知できるように徹底する。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	11			定期的に行うため、年間計画に入れ、必ず実施するように会議で確認する。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する、適切な対応をしているか	10		1	外部研修と内部研修を通して、対応を再確認し、虐待防止の意識を高める。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	9			身体拘束がやむを得ない時は、検討委員会で必要性の判断する等、指針に沿って対応する。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9			病院によるアレルギー検査結果等を保護者と共有し、代替のおやつを提供することを徹底する。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	11			重大な事故につながらないように、日々日誌への記載や、打ち合わせ、定例会議での情報共有に努める。